地域に誇りを　自分に自信を

【実践者】

氏名	後藤千春	**学校名**	栃木県立足利南高等学校
担当教科等	地歴・公民科	**対象学年**	3年
実践年月日もしくは期間(時数)	令和６年 9月～12月(15時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域

地歴・公民科　地域研究(学校設定科目)

2. 単元名と単元目標

①　単元名

「地域に誇りを　自分に自信を」

②　単元目標

広い視野に立ち地域の諸課題を追求し解決へ結びつけていく活動を通して、グローバル化する国際社会の中での自らの生き方を考え肯定的に捉え誇りと自信をもつ。

③　関連する学習指導要領上の目標

人間としての在り方や生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。(高等学校学習指導要領　公民科　倫理)

＊学校設定科目のため「地域研究」についての指導要領はない。そのため倫理の指導要領を参考とした。

3. 単元の評価規準

①　知識及び技能

・地域の魅力と課題について関係する人材などを活用し情報を収集することができる。
・ウガンダと地域を類似点、相違点の視点で整理することができる。

②　思考力、判断力、表現力等

・地域の魅力や課題についてその原因、背景と現状を考えることができる。
・ウガンダと地域の比較を通し、そこに生きる人々の気持ちを想像し自分の言葉で表現することができる。

③　学びに向かう力、人間性等

・地域の魅力や課題について今後自分はどのように関わっていくかを考え、自分にとって充実感につながることは何かに気づくことができる。
・置かれた場所で自分なりに動いていくことの大切さに気づくことができる。

4. 単元設定の理由・単元の意義

① 単元設定の理由

これからの地域社会を担っていく生徒たちに、地域についての学習をウガンダとの比較を通して行う。その実践において他を知ることにより、より自分を知ることへ繋いでいきたい。そして結果として、今後の生き方を考え自ら主体的に動けるようになることを期待してこの単元を設定した。

② 単元の意義

本校の生徒は家庭環境などから経験値が少なく広い視野をもつことが難しい生徒が多いと思われる。また、将来的に地元への就労率が比較的高くなるにもかかわらず、地域社会への関心や、愛着が薄いと感じる。ウガンダの人たちの気持ちを想像する活動などから、自分の置かれている場所で精一杯生きることの大切さを感じ、今後、地域とどのような関わりをもち、どのように動いていくかを考えるきっかけとなるようにしたい。

③ 児童/生徒観

3年生選択者22名のクラスである。 素直で何事にも真面目に取り組むことができる生徒が多い。しかし自分の将来についてはまだ漠然としている生徒もいたり、自ら考えて動くことを苦手に思ったりしている生徒もいる。

地域研究の授業においては、1学期から地域の調査に取り組み、自分たちが生活する地域への関心が少し高まってきた段階である。また授業担当者から、常に他地域の話や、ウガンダの話題を聞いてきたこともあり、地域研究における他地域との比較、検討の必要性は理解できている。比較を通してそのインパクトが大きければ大きいほどより自分自身を知ることになることを期待したい。

④ 指導観

一見関係が薄いと思われる地元地域とウガンダとの比較になるが、この単元において生徒に気づかせたいことは、自らの生き方についてである。足利でもウガンダでも不便なことはたくさんあり、その一方で幸せを感じながら生きている人はたくさんいる。そのことに気づき置かれた場所でいかに自分を活かしていくかを考えていくことの大切さを気づかせたい。

さらに、地域社会への興味・関心が深まることにより、地域課題の解決策を考えたり提案したりする活動をすることになるであろう。そうなることで自分自身は何ができるかを考えることになる。そのような体験から、自己肯定感や自分への自信を、そして地域への誇りを感じてほしい。

自分のいる場所の良さを知ることが、他者尊重、他者理解に繋がり、この授業での活動が、世界への関心に目覚め、世界の諸問題を身近に感じることに繋がっていくことを望む。

5. プログラム計画

回	テーマ ねらい	方法・内容	使用教材等
1 2	**●ウガンダを知ろう** ねらい：ウガンダの大枠をとらえ、興味・関心をもつ。	・写真を見ながら〇×クイズでウガンダについて学ぶ。 ・生徒たちにとってはなじみの薄い国なので、基本的な情報もクイズに取り入れる。	・写真 ・動画 ・現地エピソード ・現地で購入した社会科テキスト
3 4	**●自分の周りも振り返ってみよう** ねらい：ウガンダとの比較をとおして自分の置かれている状況についてさらに関心をもつ。	・1学期に調査した地元についての誇り（良い面）や課題などについて、ウガンダと似ている点や、相違点などをいくつかの項目に分類して比較する。	・写真 ・動画 ・現地で購入した民芸品等 ・アフリカ布 ・地元に関する資料
5 本時 （1） 6	**●そのときあなたは・・・** ねらい：地元とウガンダの比較の写真をみて、それぞれ自分がそこにいたら何を思うかを考える。	・Teams を活用し写真や資料の分類をする。 ・分類した写真に、その現状に何を思うかを想像してコメントを入力し共有する。 ・他のグループのコメントにリアクションをつける。 ・ネガティブな感情だけでなく、楽しさや夢などが想像できるようにする。	・写真 ・1学期に作成した地元に関する資料 ・タブレット
7 本　時 （2）	**●ウガンダの生徒との交流** ねらい：お互いの街（国）の誇りや課題、また将来の夢について意見交換をする。	・オンラインで現地とつなぎ意見交換をして実際のウガンダを感じる。	
8	●交流を通して感じたことを共有しよう ねらい：多様な暮らしの中でも人々は「苦しみ」だけでなく「喜び」「楽しみ」「希望」を感じながら生きていることに気づく。	・それぞれがもつ「誇り」や「希望」、また「課題」などについてKJ 法を使いグループでまとめる。	・タブレット
9 ～ 15	**●地域に誇りを　自分に自信をもつために** ねらい：地域に興味をもち、主体的に関わることで自分自身の自信につなげていくことができる。	・地域の諸課題について自分がどのように主体的にかかわっていくか考える。 ・ダイヤモンドランキング形式でできることを考える。 （地元の強みや諸課題、改善策などについては足利市役所総合政策課の協力を得て1月に発表予定） ・自分が置かれている場所で今後どのように主体的に動いていくか考える。	・タブレット

6. 本時の展開

授業実践を2回行った。プログラム計画5時間目と7時間目の展開案

時間	5時間目		
本時のねらい	地元とウガンダの比較の写真をみて、それぞれ自分がそこにいたら何を思うかを考える。		
過程 （時間）	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5分）	●本時のねらいの確認		
展開 （40分）	●グループワーク 分類した写真に、その現状に何を思うかを想像してコメントを入力、確認する。 ●全体活動 ホワイトボード上に各班のシートを提示し、ほかのグループの内容を見たり、発表を聞いたりして良いと思う点や自分たちにない発想にリアクションをする。	・Teams のホワイトボード機能を活用し行う。 ・ホワイトボードの活用方法については、机間巡視をして助言をしていく。 ・ネガティブな感情だけでなく、楽しさや夢などが想像できるように助言する。 ・人物の写真の取り扱いには注意し、事前に利用の確認をとる。	写真 調査資料 タブレット
まとめ （5分）	●振り返りシート記入 ●次回の予告	・正解のない問にチャレンジしたことを伝え、生徒自身の頑張りを称える。	

時間	令和6年12月16日（月） 日本時間16：30～17：30 プログラム案　7時間目		
本時のねらい	ウガンダの同世代の人たちとの交流し、共通点、相違点に気づく		
過程 （時間）	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （15分）	●挨拶　自己紹介 ●あしながウガンダ岡崎さん、ロナウドさんからの挨拶 ●アイスブレイク（じゃんけん大会） 日本では順番を決める際じゃんけんをすることを伝え、日本式のじゃんけんを一緒に楽しむ	・個人の自己紹介ではなく、代表者が挨拶し、学校紹介をする。 ・じゃんけんの説明は英語で行う。 →実際のじゃんけんの発声は日本語で行う。	・ZOOM ・じゃんけんの図
展開① （20分）	●テーマについて意見交換 ＊好きなもの ＊好きな食べ物 ＊自分の街の好きなところ ＊将来の夢	・写真や絵を提示しながら簡単に紹介する。 ・足南、あしながそれぞれ1名ずつでてきて、じゃんけんをして、勝った方から発表する。各テーマ2名ずつ8人が発表。	・写真 ・絵
展開② （15分）	●クリスマスの過ごし方や街の様子についてお互いに発表しあう ●『ジングルベル』をうたおう ～お互いに来年もよい年になるように願いをこめて～	・ICE 部が行う。 ・フォーク部による伴奏 ・1回目英語 2回目日本語 3回目ミックス	・写真 ・絵
まとめ （10分）	●岡崎さんからのはなし ●代表生徒からの挨拶		

7. 評価規準に基づく本時の評価方法

・振り返りシートによる自己評価
・グループワークの様子

8. 学校外との連携

・あしながウガンダ
・足利市役所（予定）

9. 生徒の学びの軌跡

1学期から始めた地元の研究と、ウガンダの様子を使用し対比することで、その地に生きる人々の想いに気づくことを目指した。生徒はどうしても、困難や課題に目を向けがちになってしまうが、良い所や希望を感じる点などにも着目させるように心がけた。
1学期（7月）に行ったアンケートの結果は以下の通りである。

地元について思うこと：
良い面：歴史の街　自然豊か　観光地がある
課題　：交通の便が悪い　遊ぶ場所が少ない　　観光客があまり来ない
　　イベントが少ない
ウガンダについて思うこと（想像）
良い面：自然豊か　動物が多そう　子どもの笑顔がかわいい　スポーツ得意そう
課題　：貧しい　子どもは学校に行っていないで働いている　水汲みしている
　　裸足　内戦がある　治安が悪い　ご飯が食べられない

夏休みの課題として地元活性化のためにどのような資源があり、どうすればより活性化できるかについてリサーチさせた。この課題に取り組むにあたり、生徒たちは本校職員へのインタビューなども行った。その結果自分たちの狭い視野から少し脱却して、様々な視点から地元をみることができるようになっていった。

2学期に入り、ウガンダの写真を見たり、話を聞いたりするなかで、彼らの地元やウガンダへの気持ちにどのような変化があったかを確認するために、写真を活用した授業を行った。地元の写真をたくさん撮ってくる課題をだし、Teams 上のフォルダーで管理し収集した。地元、ウガンダそれぞれの写真を「学校」「食べ物」「女性」「子ども」「インフラ」「宗教」「職業」「ファッション」「環境」「笑顔」などの10項目に分類させ、対比させた。
10月の授業実践では、Teams のホワイドボード機能を使い、分類した写真に、その場に自分がいたら何を思うかという問へのコメントを入力させ、発表しあった。発表の際にはホワイトボードのリアクション機能を活用し、すぐに思いを可視化し、共有するようにした。この活動を通して、日本にもウガンダにも不便に思うことや不満に思うことはあるが、同じように楽しく思うこともたくさんあることに気づくことができた。
また、現地食のマトケの試食も行った。マトケについては苦手な生徒が多かったが、自分たちの日ごろ食べているイモフライが他地域からは珍しがられるものであるという話題におよび、ソウルフードへの愛着をさらに強くしたようだった。

【その時あなたは：実践授業で生徒が作成した写真シート】
＊右が地元、左がウガンダの写真　コメントは生徒の気持ち

数多くの写真シートができあがったが、そのなかでも生徒の気持ちの変容が大きく現れた写真が左の写真である。
『空は似ている
つまり同じ空の下で生きている』
高校生ならではの素晴らしい感性に驚かされた。
11月の授業では、当初から予定していたウガンダとのオンライン交流が実施できず、地元についての リサーチを主に実施した。5つの班に分かれ、ウガンダとの比較から考えた、自分たちにとって大切なものを再確認し、それらを地元で活かす方法、活かせるために必要なことなどを考えた。

12月16日に実施された「あしながウガンダ」との交流会では、オンライン上で日本の伝統的な遊び「じゃんけん」を行ったり、日本の文化である「茶道」を紹介したりした。さらにお互いの学校や街の紹介、将来の夢などを語り合った。

【あしながウガンダとの交流】

交流会後の生徒たちの感想：
・本当に楽しくてあっという間の時間でした。こちらが事前に用意してきたのと同じように、ウガンダの子も考えてきてくれていたので嬉しかった。どんどん笑顔が増えていく姿を見て交流できてよかったと思いました。先生の話を聞くだけでもウガンダの子の印象が大きく変わったけど、実際に表情をみて知らないだけでまだまだ魅力がたくさんある国なんだなと思いました。2回目もやりたい。
・交流会を行う前はどうなるのだろう、きちんとコミュニケーションが取れるのか不安だったけどウガンダの同世代の子と交流会ができて楽しかった。ウガンダの子は人にどうにかしてもらうのではなくて、人が足らないから自分が医者になるなど前向きな取り組みで自分がどうにかするという、今の私にはできないことをしていて、私もウガンダの子のようになりたいと思った。

生徒の感想
・想像していたウガンダとは違う驚きや、逆に意外にも同じところがあったことを表現できた。ウガンダの人にも日本の事を知ってもらいたいと思った。その反応が気になる。
・ウガンダと日本の相違点や共通点を見つけて自分の気持ちを表現できた。
・ウガンダの写真には見たことのないものが多かったけど、面白かった。
・ウガンダと日本の良いところを表現できた。
・ウガンダでも楽しく暮らせそうと思った。
・日本とウガンダの普通が違うことに驚いたがそれを知ったことが楽しかった。
・足利の事をより知りたいと思いました。足利がよい街だと知ってもらいたいし、足利人が足利をもっと好きになってもらえるように考えていきたい。
・足利とウガンダの伝統を学びたい　比較したい
・もっと自分の周りについても知りたい

10. 自己評価

①　成果が出た点

実践授業後の生徒アンケートの結果として次のようなことが挙げられた。地元とウガンダ、それぞれを肯定的に捉え、さまざまな違いはあってもそこに暮らす人々には、「困難」や「課題」はあるが、同じように「喜び」や「楽しみ」「希望」があることに気づかせることができた。

②　苦労した点

・膨大な写真資料を活用したため、教師側の誘導にならないように生徒の自由な選択にまかせた。そのため、かなりの時間を要してしまい準備に時間がかかってしまった。また、地元の写真については生徒の自己判断に任せたが、当初似たような写真が多くなってしまい、2度目の撮影でどうにか視野がひろがり、さまざまな視点の写真が集まってきたように思う。
・準備不足のためオンラインでのウガンダとのつながりまでに時間を要してしまったので、いったんウガンダの話から離れてしまう時間もできてしまった。生徒の気持ちが盛り上がっているタイミングを活かしスピード感ある展開を目指したかった。
・ウガンダと地元という大きな差をあえて利用し、自分の周りに関心を寄せていくことを目標としたが生徒たちの中には、当初別のことをやっているような感覚をもっていた生徒もいた。何度もこちらの想いを伝えることでクラス全体が同じ方向性をもって授業に取り組むことができるようになっていった。

③　改善点

2単位の「地域研究」の授業では、行事等の関係で授業のカットもあり継続的にスピード感をもって授業を展開することが難しかった。指導計画をもう少し綿密に検討すべきだった。

④　自由記述

本年度開講された「地域研究」という科目での実践になった。国際理解教育という言葉にとらわれすぎて、地元とウガンダをどのようにリンクさせていくのかに、まず悩んでしまったが、「自らの生き方について考える」という大きなテーマを決めてからは、あまりこだわらずに授業の準備を進め

られた。
置かれた場所でいかに自分を活かしていくかを考えていくことの大切さを気づかせるまでにはまだ時間がかかりそうだが、この授業をきっかけに地域社会への興味・関心を深め、地域課題の解決策を考えたり提案したりする活動に興味をもってもらえればと思う。そのような体験が、自信に繋がり、さらに世界への関心に目覚め世界の諸問題を身近に感じることに繋がっていくことを願うばかりである。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

・地域の有志教員による総合探究勉強会においての報告（8月27日）
・11月～12月選択科目「偉人研究」での SDGsに関連する授業
・校内国際理解教育講演会（12月16日）
　　・選択科目「偉人研究」での出前講座（12月16日）
　　「海外で活躍する日本人」というテーマでのワークショップ
・総合学科発表会での「地域研究」「偉人研究」授業の展示、発表（1月25日）
・栃木県高等学校国際教育研究協議会　国際教研だよりへの寄稿

12. 自由記述

研修参加前の7月に全校生徒を対象としたアンケートを実施した。12月に校内で国際理解教育講演会を実施し、また2学期いっぱい校内にウガンダの写真400枚あまりを掲示した。生徒の中には廊下で会うと、写真の事を質問してくれる生徒も出てきた。そのような活動の結果、12月末に実施したアンケートでは、7月に実施したアンケート結果とは大きく変化した項目があった。それは、「国際理解とは何だと思うか？」の問いである。生徒たちの中には難しく考え、自分ごとになっていなかった「国際理解」が、12月には、「まずはいろいろなことを知ること、他を知ること」そんな風に考えられる生徒が増えたようだった。本来ならウガンダについての理解や、国際情勢など伝えなくてはならないことがたくさんあると感じていたが、まずはその「とっかかり」をつくろうと本校生の実態にあった活動を続けた結果の答えだったと思うと嬉しく感じた。

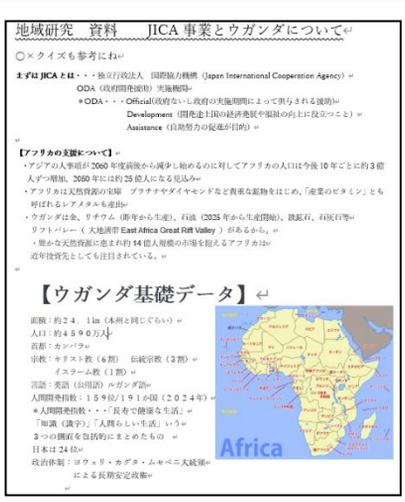
13. 参考資料

資料名	著者名等	出版元、URL 等
チャレンジ　～私のウガンダ200日～	山田優花	金鯱書房
ウガンダを知るための53章	吉田昌夫　　白石壮一郎	明石書房
アフリカの真珠　ウガンダ	青木茂芳	教育出版センター（徳島）

14. 本時で使用した資料

上記の参考資料をもとに、次のような資料を作成しプログラム計画1・2で使用した。

【地域研究　資料　JICA　事業とウガンダについて　一部抜粋】

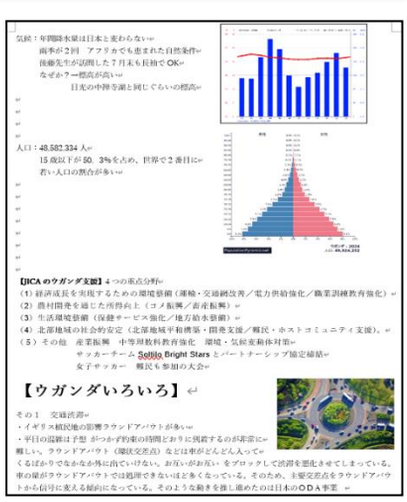

地域研究　資料　　JICA 事業とウガンダについて

○×クイズも参考にね

主：JICA とは・・・独立行政法人　国際協力機構（Japan International Cooperation Agency）
ODA（政府開発援助）実施機関
＊ODA・・・Official(政府ないし政府の実施期間によって供与される援助)
Development（開発途上国の経済発展や福祉の向上に役立つこと）
Assistance（自助努力の促進が目的）

【アフリカの支援について】
・アジアの人口増が 2060 年度頃から減少し始めるのに対してアフリカの人口は今後 10 年ごとに約 3 億人ずつ増加、2050 年には約 25 億人になる見込み。
・アフリカは天然資源の宝庫　プラチナやダイヤモンドなど貴重な鉱物をはじめ、「産業のビタミン」とも呼ばれるレアメタルも産出。
・ウガンダは金、リチウム（即年から生産）、石油（2025 年から生産開始）、鉄鉱石、石灰石等
リフトバレー（ 大地溝帯 East Africa Great Rift Valley ）があるから。
・豊かな天然資源に恵まれ約 14 億人規模の市場を抱えるアフリカは
近年投資先としても注目されている。

【ウガンダ基礎データ】
面積：約２４．１km（本州と同じぐらい）
人口：約４５９０万人
首都：カンパラ
宗教：キリスト教（６割）　伝統宗教（３割）
イスラーム教（１割）
言語：英語（公用語）ルガンダ語
人間開発指数：１５９位/１９１か国（２０２４年）
＊人間開発指数・・・「長寿で健康な生活」
「知識（識字）」「人間らしい生活」いう
３つの側面を包括的にまとめたもの
日本は 24 位
政治体制：ヨウェリ・カグタ・ムセベニ大統領による長期安定政権


気候：年間降水量は日本と変わらない
雨季が２回　アフリカでも恵まれた自然条件
後藤先生が訪問した７月末も長袖でOK
なぜか？一標高が高い
日光の中禅寺湖と同じぐらいの標高

人口：48,582,334 人
15 歳以下が 50、3%を占め、世界で２番目に
若い人口の割合が多い

【JICA のウガンダ支援】４つの重点分野
（1）経済成長を実現するための環境整備（運輸・交通網改善／電力供給強化／職業訓練教育強化）
（2）農村開発を通じた所得向上（コメ振興／畜産振興）
（3）生活環境整備（保健サービス強化／地方給水整備）
（4）北部地域の社会的安定（北部地域平和構築・開発支援／難民・ホストコミュニティ支援）。
（５）その他　産業振興　中等理数科教育強化　環境・気候変動体対策
サッカーチーム Setilig Bright Stars とパートナーシップ協定締結
女子サッカー　難民も参加の大会

【ウガンダいろいろ】
その１　交通渋滞
・イギリス植民地の影響ラウンドアバウトが多い
・平日の混雑は予想 がつかず約束の時間どおりに到着するのが非常に難しい。ラウンドアバウト（環状交差点）などは車がどんどん入って くるばかりでなかなか外に出ていけない。お互いがお互い をブロックして渋滞を悪化させてしまっている。車の量がラウンドアバウトでは処理できないほど多くなっている。そのため、主要交差点をラウンドアバウトから信号に変える傾向になっている。そのような動きを推し進めたのは日本のODA事業

【ウガンダクイズ】

	ウガンダ○×クイズ　　年　　組　　番　　氏名	あなたの答え	正解
1	ウガンダは赤道直下の国！灼熱の太陽のもと、年間の平均気温は３５℃！？日本の夏のように暑い毎日		
2	ウガンダは乾期が長く雨が少ないので、「乾いた大地」と言われている！？緑はほとんどない		
3	ウガンダでは、農業があまりできないから収入になるダイヤモンド鉱山に出稼ぎに行く人が多い		
4	ウガンダの重要な交通手段は「乗り合いタクシー（マタツ）」ほとんどが日本製！？		
5	ウガンダの首都カンパラでは交通渋滞がひどく、交差点を一つ越えるのにも３０分以上かかることがある。		
6	ウガンダではバイクタクシー（ボダボダ）がたくさんある。定員は運転手を入れて４人である。		
7	日本の主食と言えば米！ウガンダの主食ともコメのみ！！		
8	ウガンダ人はバナナ大好き　一回の食事でのバナナの消費量は5～６本！！		
9	ウガンダ人は一日2食　朝は紅茶を飲む程度		
10	ウガンダ人のがよく食べる「ポショ」とは、じゃがいものこと		
11	ウガンダ人は生野菜サラダをよく食べる		
12	ウガンダ人はパッタを食べる　セネネと言ってエビのような味である		
13	ウガンダでは稲作がさかん　雨季を利用して年に多いと4回コメが作れる		
14	稲を鳥に食べられないように、鳥追いの少年が配置されている場所もある		
15	ウガンダの学校では運動会でバナナの皮むき競争がある		
16	日本では、牛＞豚＞トリ肉の順で値段が高いが、ウガンダでも同じで牛肉が最も高い！？		
17	ウガンダの人は困ったことがあると、黒魔術に頼ることもある		
18	ウガンダではキリスト教の人８５％、イスラム教の人１０％であるが、キリスト教の祝日（クリスマス）とイスラム教の祝日（断食明け）の両方が国民の祝日になっている		
19	子どもの遊びと言えばサッカー。サッカーをする時ウガンダの子どもたちは靴をぬぎ裸足になるのが当たり前！？		
20	ウガンダではサッカーボールにバナナの皮を丸めたものを使っているチームもある		
21	ウガンダの学校では制服はなく、みんな自由な服装で登校している		
22	マウンテンゴリラは絶滅危惧種で全世界で900頭ぐらいしかいないがウガンダでその半数以上が生息している		
23	絶滅危惧種であるヨウムは、オウム科の鳥である		
24	ヨウムはおしゃべりをするのでペットとして人気の鳥である。		
25	ウガンダにはまだ携帯電話はほとんど普及していない		
26	ウガンダにはウーバーはない		
27	ウガンダ人はマックが大好き		
28	ウガンダではお寿司は食べられない		
29	ウガンダでは、大学をでても就職先が少ない		
30	ウガンダではゴミ拾いを仕事にしている人がいるので、ゴミはわざと拾わない		
31	ウガンダはナイル川の源流である		
32	ナイル川にかかる橋を日本の会社がウガンダ人と一緒に作った		
33	ウガンダの女性は学校に行っていない		
34	ウガンダの学校では、教室が不足していて青空学級や、1クラスに80人ぐらい入っている教室もある		
35	ウガンダにはICTはまだ取り入られれていない		
36	ウガンダの公用語はフランス語である		
37	ウガンダにはAIDSで親を亡くした子どもが多くいる		
38	ウガンダは、隣国から難民をたくさん受け入れているが、難民と国民の争いが絶えない		
39	ウガンダでは学校で農業を教えている		
40	ウガンダの男女でデートは、男性がお金をだす		
41	ウガンダでは1人の男性に2人の奥さんが認められている		
42	ウガンダの女子生徒は生理の期間は学校を休む生徒が多い		
43	ウガンダの人はお金が入るとネイルや美容院などによくいく		
44	ウガンダの地方でも水洗トイレが整備されている		
45	ウガンダではWi-fiは通じない		
46	ウガンダ人に日本と言えば？と聞くと「富士山」と答えてくる		
47	ウガンダ人の一番多い名字は、モハメットである		
48	ウガンダの学校にもスポーツデイはある		
49	ウガンダの学校にも校則がある		
50	後藤先生は飛行機に乗りかえに失敗し帰国が一日遅れた		